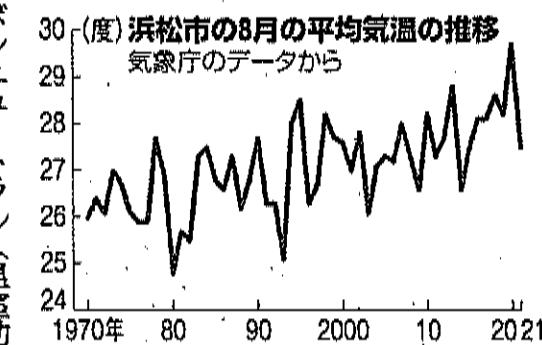


気候危機 行動を求める若者

危機の時代に
2021衆院選 [3]

党・議員の取り組み 高2 洛川



「気候非常事態宣言都市にして下さい!」「私たちの未来を私たちで作ろう」制服姿の生徒たちが、画面に向けてメッセージを掲げる。9日、浜松開誠館中・高（静岡県）の生徒が企画したオンラインイベント。気候危機について、若い世代の声を政治に届けよう呼びかけた。

浜松市では昨年8月、国内最高気温に並ぶ41・1度を記録。夏場、屋外の部活動も年々厳しくなっている。日本は菅政権の下、昨年10月に、2050年の力1

見えてこない。「まだ大き

ボンニュートラル（温室効果ガスの実質排出ゼロ）を宣言。国連に30年度に13年度比46%削減するという目標を提出した。

ただ、選挙を前に、政治家の気候危機への考え方を見えてこない。「まだ大き

な問題だと思っていないのか」。主な政党にアンケートを出し、9政党のうち8政党から回答が来た。実行委員長の山田裕翔さん（高2）は「若者が真剣に考えている」と思ってくれたのか、これまでから選挙権を持つからイメージを気にしたのかな」。

尋ねたのは、①46%の削減目標の評価②効果的な排出削減対策③気候危機に対する各党や議員の活動、の三つだ。46%減の目標について、与党の自民・公明は「野心的」と評価。日本維新は過度な規制による産業流出を招かないよう、技術革新と雇用創出を訴えた。一方、立憲民主と共産

は、「目標は不十分という立場だ。それより55%以上削減、50～60%削減を目指すべきだと提言した」。生徒には物足りなかつたようだ。佐々木涼翔さん（高2）は、党や議員の取り組みにがっかりした。紙やペットボトルを減らすなど、学校でもやっていることがかりだったからだ。「大人にしかできない、国會議員にしかできない規模で取り組んで欲しい」。上嶋波矢都さんは「未来を作るのは技術だ。次の技術への支援をお願いします」と訴えた。（斎藤啓介）

